BUDŌ NEWS

# 今月のニュース

## 第 63 回全日本剣道選手権大会

張富士夫全日本剣道連盟会長から天皇盃を授与される西村英久五段

# 第63回全日本剣道選手権大会

# 西村英久が剣道日本一に輝く

天皇盃を受ける西村英久五段

第63回全日本剣道選手権大会は11月3日、日本武道館で開催された。大会には、今年の剣道日本一を一目見ようと1万254名の観客が集まり、大会来場者数が過去最高を更新した。大勢の観客が詰めかけた会場は本年5月の世界剣道選手権大会に勝るとも劣らない熱気に包まれた。

決勝は、今年の世界大会個人戦3位の西村英久（にしむらひでひさ）五段（熊本・熊本県警）と、同じく世界大会団体戦優勝メンバーの勝見洋介五段（神奈川・神奈川県警）が勝ち上がり、西村が面を二本決めて、2回目の出場で初優勝を手にした。また、大会史上初の学生での連覇を目指した竹ノ内佑也四段（福岡・筑波大）は3回戦で勝見に面を奪われて敗れ、連覇はならなかった。

開場前から多くの剣道ファンが武道館に詰めかけた

開会式

天皇盃を返還する竹ノ内佑也四段

準々決勝＝西村対安藤
西村（奥）の竹刀飛ばし

試合後、座礼をする西村

試合は、全国の予選を勝ち抜いた64名の剣士によるトーナメント方式で争われた。試合は三本勝負、試合時間は3回戦までは5分、4回戦以降は10分で行われ、時間内に勝敗が決しない場合は時間無制限の一本勝負で争われた。

**《1～4回戦》**

**◇第1ブロック**

今年の世界大会団体戦で活躍した安藤翔（北海道警）は順当に勝ち上がり、ベスト8に残った。もう一名のベスト8進出者は、同じく世界大会の個人戦で3位に入賞した西村英久（熊本県警）。西村は、ここまでの3試合全てで得意の小手を決めて調子良く勝ち残った。安藤と西村の試合は、近間での攻防が目立つが、両者手の内を知り尽くした仲だけに、なかなか攻めきれない。試合時間8分過ぎ、西村が安藤の竹刀を払い落として安藤に反則1回が与えられる。延長戦になり、西村は安藤が胴を打った後、竹刀が裏交差になった状態から再び竹刀を払い落とす。これで反則2回の安藤は痛恨の反則負け。西村がベスト4に進出した。

準々決勝＝竹下対正代。竹下（右）が攻める

準々決勝＝梅ヶ谷対高見。梅ヶ谷（左）が面に跳ぶ

３回戦＝勝見対竹ノ内。勝見（右）が小手で勝利

準々決勝＝勝見対笹川。勝見（右）が面を決める

**◇第2ブロック**

学生大会を大学1年で制覇した初出場の梅ヶ谷翔（中央大）は、4回戦までの3試合全てを延長戦の末に制して勝ち上がり、4回戦では同じく初出場の高見優（神奈川県警）と対戦。開始直後に梅ヶ谷が小手を打ち、一瞬動きが止まったところで高見は小手を決め先制する。後がない梅ヶ谷だが、怯（ひる）むことなく攻め続け、鍔迫（つばぜ）り合いから高見が下がった隙に高見の竹刀を払って面を決める。なおも攻め続ける梅ヶ谷は、高見が下がったところに面を決めて一本。逆転の二本勝ちで準決勝に進出した。前々回優勝の内村良一（警視庁）は、2回戦で初出場の北浦裕介と対戦。内村は小手で先制するも、そこから面・小手と北浦に二本奪われ、逆転負けを喫して、2回戦敗退。

**◇第3ブロック**

注目選手である正代正博（警視庁）は、2回戦、3回戦で延長までもつれるが、ベテランらしい落ち着いた試合運びの末に勝利して、4回戦に進出。もう一つの山から勝ち上がってきたのは、昨年ベスト8の竹下洋平（大分県警）。竹下はここまでの試合すべてを延長戦の末、勝ち上がった。正代と竹下の試合は、両者、機を窺い慎重に攻めるも、互いになかなか有効打突にならない。試合は延長にもつれ込み、延長10分過ぎ、両者の間合いが中途半端につまり、正代が居ついたところで、竹下が面を決めて決着。20分を越える熱戦を制した竹下がベスト4に進出。

**◇第4ブロック**

今年の世界大会団体戦メンバーの勝見洋介（神奈川県警）は2回戦で、出場12回を数えるベテランの米屋勇一（埼玉県警）を延長の末、小手で降すと、3回戦で昨年の覇者、竹ノ内佑也（筑波大）と激突。勝見は、竹ノ内が面を打ちに前に出てきたところに出小手を決めて一本勝ち。竹ノ内の学生連覇を阻んだ。4回戦では元強化選手のベテラン笹川哲平（佐賀県警）と対戦。勝見は開始8分、出ばな面を決める。一本取った勝見はそこからは無理に攻めずに時間を使う。勝見に対して審判から反則が与えられるも、この一本を守り切って初の準決勝進出を果たした。

**《準決勝戦》**

**西村英久　反（延長）―　梅ヶ谷翔**

両者とも相手の一打を警戒して打っては鍔迫り合いの体勢になり、膠着状態が続く。離れない2人に反則が与えられる。両者ともに有効打突がないまま延長戦へ。鍔迫り合いの状態から西村が小手を打って前に出ると、梅ヶ谷も負けじと引き面を打つが、どちらも有効打突にはならない。引き面を打って下がる梅ヶ谷を、小手を打った西村が追い、場外際で押すと梅ヶ谷が場外に弾き出される。これで反則が2回になった梅ヶ谷が反則負け。西村が初の決勝に進出した。

準決勝戦＝西村対梅ヶ谷。西村（右）が小手で攻める

**勝見洋介　メメ―　竹下洋平**

互いに初の決勝進出を懸けての一戦。勝見と竹下は静かな立ち上がりを見せる。互いに間を図り、迂闊に攻めない。剣先で相手を牽制しつつ、自分の勝負の間合いを探り合う。間合いの攻防が続く中、時折互いに面、小手などの技を繰り出していく。緊迫した試合が続く中、開始7分過ぎ、竹下が一歩間合いを詰めると、そこでできた隙を勝見が捉えて面を決める。その約1分後、竹下が小手を打ちにくるところを読んで再び勝見の面一閃。勝見が二本勝ちで決勝の舞台へ進んだ。

準決勝戦＝勝見対竹下。勝見（左）が竹下に出ばな面を決める

**《決勝戦》**

**西村英久　メメー　勝見洋介**

決勝戦はどちらも世界大会に出場した強化選手の2名で争われた。開始直後、先に仕掛けたのは勝見。面で思い切って西村の間合いに跳び込んでいく。この面は西村が余裕をもってかわす。その後も勝見は突き、小手、面を織り交ぜながら打っていくが、西村は間合いを見切ってこれをしっかり捌く。一方、西村は面、小手を連続で打って、上下に揺さぶりをかけつつ、出ばなの胴を狙うなど、多彩な技で応戦。両者一歩も引かない中、開始4分過ぎ、西村が剣先での攻めぎ合いから面に跳び込むと、反応が遅れた勝見から一本を先取する。そして、試合再開直後、一本目の余韻が醒めやらぬ中、再び西村が面に跳び込む。完全に意表をつかれた勝見は、ほとんど動くことができずに二本目の面を決められ勝負あり。西村が見事な二本勝ちで剣道日本一の座に上り詰めた。

決勝戦＝西村（左）が跳び込んで一本目の面を決める

決勝戦＝西村が得意の小手を打つ

決勝戦＝試合開始直後、勝見が果敢に攻め込んでいく

決勝戦＝西村が逆胴を狙う

# もう一個、図々しく

◎優勝＝西村英久選手（熊本県警）

今年出場2回目、26歳で全日本選手権を制覇した。

「子供の頃から剣道を始めて、テレビに映るこの大会をずっと目標にしてきました。優勝できてめちゃくちゃ嬉しいですね」

決勝では見事な面を二本決めて快勝した。

「色々考えて打ったわけではないです。普段通りに、あ、面いこうという感じですね。二本目も開始線に立った時に、いきなり跳び込み面にいけば、相手の虚をつけるかなと思ったら、たまたま当たりました」

学生時代から数々の大会で活躍した西村だが、個人戦では3位に甘んずることが多かった。今年の世界大会の個人準決勝戦も、先制しながら逆転を許して3位。しかし、この世界大会での敗戦が西村の意識に変化をもたらした。

「世界大会でもそうでしたが、今までは、試合で一本取ったら勝てるという気持ちがありました。でも、それじゃあ駄目だなと思って。一本取ってから、もう一回攻めようという気持ちを持つようにしました。ずっと3位止まりですし、もう一個、図々しいところが必要なのかなと。結果論ですが、今日、決勝の二本目で攻めようと思えたことは自分の中では大きかったと思います」

気持ちの変化だけではなく、今日の試合ではいつも以上に勝ちにこだわる姿勢も見られた。準々決勝の安藤戦では相手の竹刀を2回飛ばして相手の反則を誘って勝利した。ただ、その点に質問が及ぶと、苦笑いしながら答えた。

「そうなんですよ。汚いですよね。自分でも汚いと思うんですけど、やっぱり勝ちにこだわってしまった部分でもあります。ただ、安藤が試合中に何回も左手一本になっていたので竹刀飛ばしをやろうとは思っていました」

今日の優勝を一番伝えたい人については、親という答えが返ってきた。

「報告しても、もう知っていると思いますけど、やっぱり一番感謝しているのは親なので、親に直接、自分の声で報告したいですね」

意識も新たに、壁を乗り越えて選手権者となった西村。生まれ変わった西村の図々しさに今後も注目していきたい。

大会後、大勢の子供のサインに笑顔で応じた

〈選手コメント〉

○準優勝＝勝見洋介選手（神奈川県警）

「世界大会が終わってから結果が全然出せなくて辛い思いをしてきました。今日は、あまり上を見ないで一戦一戦やっていくなかで優勝に繋がればいいなと思っていたので、米屋さん、竹ノ内君との試合にしてもあまり考えずに試合した結果、決勝までいけたのだと思います。最後、良い思いで終わりたいという気持ちで決勝戦に臨んだんですけど、自分の弱い所が出てしまいました。最後の面はよく打たれるので、そこは足で捌いたり、打つ前に相手の竹刀を殺すだとか、そういったところをやっていかないと優勝はなかなかできません。西村選手との違いは、あそこで捨てきれるかどうかだと思うので、次に繋げて頑張りたいと思います」

▽3位＝梅ヶ谷翔選手（中央大2年）

「今は試合直後で悔しいですけど、結果的には3位まで来られて嬉しいです。内容は悪くなかったですし、自分の力は出せました。試合では全然緊張しなかったです。西村さんの攻めは速くて、打突の力、上に上がりたいという気持ちは西村さんの方が上だったと思います。これからは、一本をもぎ取れる攻撃力をつけて、その中で引き技を活かしていくようにしたいです」

▽3位＝竹下洋平選手（大分県警）

「対応できないところを奇麗に打たれてしまいました。相手のペースに持ち込まれると打たれる兆候が現れるので、自分のペースを崩さずに、時間がかかってもよいので一本勝負のつもりで取りにいこうと思っていましたが、知らない間に集中力が切れていました。去年はベスト8で負けて悔しかったのですが、1つ上がっても悔しさは変わらないな、というのが正直なところです」

▽ベスト8＝安藤翔選手（北海道警）

「昨年は1回戦負けしていたので今年は上に行きたいと思っていました。最後の竹刀落としは1回落としていたので気にはしていましたが、相手が上手かったです。結果には納得していないです。悔しい負け方をしました。自分は間合いを切ってからの形が得意ですが、自分の剣道をさせてもらえなかったです。今後の課題は、大舞台で、もっと実力を発揮できる精神力をつけることです」

▽ベスト8＝高見優選手（神奈川県警）

「先に一本取った後、自分の中で守るのか、もう一本取りに行くのかというところで迷いが出てしまった結果、取り返されてしまったと思います。梅ヶ谷選手は引き技が上手いというのが分かっていましたが、そこを警戒しすぎた部分があったと思います。一本取った後の組み立てが良くなかったです。また明日から稽古に励んで、来年帰ってこられるよう頑張ります」

▽ベスト8＝正代正博選手（警視庁）

「日本代表のキャプテンをやらせてもらっているんですけど、そういうプレッシャーや、勝たなければいけないという意識もありました。3位以上の結果が欲しかったです。メンタル面で少し弱さが出たのかと思います。返し胴は頭に入れていたんですが、先が掛かっていなかったので相手に攻められて打たれた感じですね。今日はいけるんじゃないかと思ったんですけど、その気持ちが油断になったのかもしれないです」

▽ベスト8＝笹川哲平選手（佐賀県警）

「相手が強かったです。1回戦を勝つのが目標でしたので、結果は良かったのですが満足はしていません。緊張はなく普段通りでした。勝見選手は世界大会の選手ですので胸を借りるつもりで試合しました。現在は、佐賀県警の特錬のキャプテンをやっています。郷里の佐賀に剣道で貢献したいので、特錬でいる間は全日本にチャレンジし続けたいです」

▽出場10回目＝内村良一選手（警視庁）

「先取できて、いい感じで入れたかなと思いましたし、調子は良かったです。一本目は居ついてしまって遠間から面を打たれてしまい、二本目はその面を警戒して、上がった手元の小手を打たれてしまいました。世界大会を経て、また全日本で勝ちたいという思いがありましたが、結果が出ませんでした。現役をまだ続けていきたいと思っていますので、また一から頑張りたいです」

▽前年度優勝者＝竹ノ内佑也選手（筑波大4年）

「1回戦から去年より身体が動いて気持ちも充実していました。打たれた小手を警戒してはいましたが、面を打って攻めたところを打たれたので悔いはありません。また一から頑点を目指して稽古します。来年からは警視庁に入庁予定です」

## 第63回　全日本剣道選手権大会

| 段位 | 出場回数 | 選出県 | 氏名 |
|---|---|---|---|
| 四段 | 1 | （群馬） | 上野　敬正 |
| 四段 | 1 | （徳島） | 白木恒二郎 |
| 五段 | 1 | （大阪） | 升田　良 |
| 五段 | 1 | （岐阜） | 野田　了 |
| 五段 | 1 | （埼玉） | 奥島　和泉 |
| 四段 | 2 | （福岡） | 西村龍太郎 |
| 四段 | 4 | （北海道） | 安藤　翔 |
| 四段 | 1 | （福井） | 冨田　成慈 |
| 六段 | 10 | （福島） | 原田　賢治 |
| 五段 | 1 | （栃木） | 髙橋　伸也 |
| 五段 | 2 | （沖縄） | 上江洌貴大 |
| 四段 | 2 | （奈良） | 山田　侑希 |
| 五段 | 2 | （熊本） | 西村　英久 |
| 五段 | 1 | （静岡） | 山名　良昌 |
| 六段 | 1 | （広島） | 山本　隆裕 |
| 六段 | 1 | （東京） | 下地　英綱 |
| 五段 | 1 | （富山） | 小木　輔 |
| 五段 | 1 | （茨城） | 遅野井裕樹 |
| 錬六 | 3 | （香川） | 安部　朋宏 |
| 五段 | 2 | （山形） | 鈴木　啓大 |
| 三段 | 1 | （福岡） | 梅ヶ谷　翔 |
| 六段 | 1 | （京都） | 山本　翔平 |
| 錬六 | 6 | （島根） | 小村　健 |
| 四段 | 1 | （千葉） | 佐藤　弘隆 |
| 六段 | 4 | （長野） | 小山　秀弥 |
| 五段 | 1 | （神奈川） | 高見　優 |
| 六段 | 1 | （埼玉） | 本間　将光 |
| 五段 | 1 | （兵庫） | 岡本　将太 |
| 錬六 | 10 | （東京） | 内村　良一 |
| 五段 | 2 | （愛知） | 野田　篤史 |
| 五段 | 3 | （青森） | 古畑　健吾 |
| 五段 | 1 | （長崎） | 北浦　裕介 |

**優勝・西村　英久（熊本）**

| 氏名 | 選出県 | 出場回数 | 段位 |
|---|---|---|---|
| 篠井　皓太 | （石川） | 1 | 五段 |
| 笠原　孝輔 | （三重） | 3 | 五段 |
| 松﨑　亮介 | （宮崎） | 1 | 五段 |
| 鹿野　允成 | （山梨） | 7 | 六段 |
| 鴨崎　弘治 | （岡山） | 2 | 五段 |
| 草彅　大心 | （秋田） | 3 | 五段 |
| 正代　正博 | （東京） | 3 | 六段 |
| 三雲　悠佑 | （滋賀） | 3 | 四段 |
| 海老原秀則 | （茨城） | 5 | 錬六 |
| 萩原　寿矢 | （大阪） | 2 | 錬六 |
| 菅野　隆介 | （岩手） | 1 | 四段 |
| 渡部　一輝 | （愛媛） | 2 | 五段 |
| 小江隆之介 | （山口） | 3 | 五段 |
| 石井　洋幸 | （千葉） | 4 | 錬六 |
| 神保　祥太 | （新潟） | 1 | 三段 |
| 竹下　洋平 | （大分） | 3 | 五段 |
| 権瓶　功泰 | （東京） | 3 | 錬七 |
| 曽根　武仁 | （愛知） | 1 | 錬六 |
| 辻　英幸 | （大阪） | 1 | 四段 |
| 竹ノ内佑也 | （福岡） | 2 | 四段 |
| 米屋　勇一 | （埼玉） | 12 | 教七 |
| 上宇都鉄舟 | （鹿児島） | 2 | 五段 |
| 勝見　洋介 | （神奈川） | 2 | 五段 |
| 後木　顕人 | （北海道） | 2 | 五段 |
| 西山　弘一 | （高知） | 3 | 六段 |
| 笹川　哲平 | （佐賀） | 5 | 錬六 |
| 真田　裕行 | （鳥取） | 1 | 三段 |
| 竹田　壮汰 | （兵庫） | 1 | 四段 |
| 笠原　周 | （和歌山） | 1 | 五段 |
| 鈴木　健太 | （千葉） | 1 | 五段 |
| 内田　勝之 | （静岡） | 5 | 六段 |
| 渡邊　哲也 | （宮城） | 2 | 五段 |

ミツボシの剣道防具
ミツボシ

少年剣道指導・木刀による剣道基本技稽古法
調布市剣道連盟の演武

日本剣道形
打太刀・石塚美文範士、仕太刀・亀井徹範士

平成27年度　講道館杯
全日本柔道体重別選手権大会

男子100kg級決勝＝ウルフ（手前）が内股を決める

## 男子100kg級

# ウルフアロン 内股で逆転、初優勝に輝く

平成27年度講道館杯全日本柔道体重別選手権大会（主催＝全日本柔道連盟）は11月7日・8日の2日間、千葉ポートアリーナで行われた。本年は、来年に迫ったリオデジャネイロ五輪代表選手の第一次選考を兼ね、男女14階級で覇が争われた。

男子100kg級では決勝でウルフアロン（東海大）と下和田翔平（京葉ガス）が対決した。試合後半、スタミナ切れの下和田に対し、ウルフは攻勢をかけ、見事に内股を決め、講道館杯で初優勝を果した。

## 男子 ▽60kg級

得意の内股で勝ち上がってきた昨年2位の山本浩史（ＡＬＳＯＫ）。決勝は優勝候補の大島優磨（国士舘大）を破った青木大（日本体育大）と対戦した。山本は指導2を受けるものの、最後は狙った内股を隅返に切り返し、有効をとった。山本は2連覇、3回目の優勝を決めた。

**◎優勝＝山本浩史選手（ＡＬＳＯＫ）**

「今年は、グランドスラムに絶対出場したいと意気込み、試合に臨みました。決勝は、なかなか自分の組手にもっていけませんでしたが、最後は技がかかってよかったです。今後、一試合ずつ大事に戦いたいです」

男子 60kg 級決勝＝山本（右）が有効を奪う

## ▽66kg級

有力選手が多く熾烈な争いとなった66kg級。昨年の覇者、阿部一二三（神港学園神港高）は3回戦で、丸山城志郎（天理大）に敗れた。同期ライバル対決となった決勝。竪山将（鹿屋体育大）は、阿部を降した丸山と激しい組手争いを展開した。残り50秒で丸山が指導1を受けそのまま試合終了。竪山が初優勝に輝いた。

**◎優勝＝竪山将選手（鹿屋体育大）**

「優勝できて本当にうれしいです。丸山選手とは勝敗は五分でしたが、今回は勝つことができました。66kg級は強豪が犇（ひし）めいていますが、グランドスラムでも優勝を目指します」

男子 66kg 級決勝＝竪山（左）対丸山

## ▽73kg級

昨年大会2位の橋本壮市（パーク24）は決勝まで順当に駒を進めた。決勝の対戦相手は、土井健史（ダイコロ）に勝利した田村和也（パーク24）。橋本が指導差1で同門対決を制し、初優勝を勝ち取った。

**◎優勝＝橋本壮市選手（パーク24）**

「小さい時から講道館杯は憧れの大会、優勝することが夢でした。嬉しいです。田村選手とはいつも練習していますので、やり辛（づら）かったですが、内容よりも何としてでも勝つという思いで挑みました。今後も、勝つことを意識して目の前の試合一つ一つに取り組んでいきたいです」

男子 73g 級決勝＝攻める橋本（右）

## ▽81kg級

決勝は、優勝候補である小原拳哉（東海大）を準決勝で破った海老泰博（旭化成）と川上智弘（國學院大職）が対決した。実業団個人選手権大会と同じ顔合わせとなった決勝は、海老が優位に試合を進めた。最後は、海老の小内刈と見せかけた一本背負投が決まり、初優勝となった。

**◎優勝＝海老泰博選手（旭化成）**

「川上選手は強い選手で対戦成績もよくありませんので、挑戦者だと思い立ち向いました。実業団の時に比べると調子はでませんでしたが、悪いなりに頑張りました。講道館杯で優勝できてよかったです」

男子 81kg 級決勝＝海老（右）の一本背負投

## ▽90kg級

男子 90kg 級決勝＝僅差で勝利した大辻（右）

実力が拮抗している90kg級、昨年2位の長澤憲大（東海大）は3回戦で姿を消した。決勝は大辻康太（日本エースサポート）と昨年3位の小林悠輔（筑波大）が対決し、指導差1の僅差で大辻が辛勝、初優勝した。

**◎優勝＝大辻康太選手（日本エースサポート）**

「なかなか結果を出せず、苦しいこともありましたが、今回、優勝できました。自分の特徴であるスピードとスタミナを活かせたと思います」

## ▽100kg級

優勝候補の一角であった熊代佑輔（ALSOK）は、2回戦で羽沢頼誠（パーク24）に大内刈を決められ敗退。決勝は、同じく優勝候補のウルファロン（東海大）と羽沢に勝利した下和田翔平（京葉ガス）が雌雄を決した。試合前半、下和田が大内刈、縦四方固と続けざまに有効をとり、優位に進める。後がないウルフは猛攻をかける。残り時間41秒、ウルフの腕力を使った内股が決まり一本勝ち。逆転劇での初優勝を果した。

男子 100kg 級決勝＝ウルフ（左）が攻勢をかける

**◎優勝＝ウルファロン選手（東海大）**

「講道館杯は、今年1年目標としてきた大会でしたので、優勝できて素直に嬉しいです。決勝序盤に、有効を取られましたが、自分にはスタミナがあります。ですので取り返す自信がありました。相手は身長がありましたので距離を詰め、焦らず自分の柔道をするように心掛けました。世界選手権での羽賀先輩の優勝はいい刺激になっています。目の前の試合を確実にこなしていけば、リオ五輪に繋がると思っています」

## ▽100kg超級

男子 100kg 級決勝＝上川（左）の隅落が有効となった

決勝は、実業団優勝の上川大樹（京葉ガス）と西潟健太（旭化成）が覇を競った。両者相手の隙を狙ってか積極的な攻めは見せず、共に指導3となり、膠着の様相を見せた。残り12秒、上川の繰り出した隅落は有効となり、上川が接戦を制した。

**◎優勝＝上川大樹選手（京葉ガス）**

「最後で有効を取ることが出来ました。気持ちよかったですね。リオ五輪に向け、すべての試合、勝ちにいきたいです。頑張ります」

## 女子 ▽48kg級

昨年3位の濱田早萌（龍谷大）は、2回戦で敗退。決勝は、昨年2位の渡名喜風南（帝京大）と山崎珠美（山梨学院大）が対決。互いに譲らず残り約1分半、山崎が奥襟をとりにきた瞬間、渡名喜は虚をついた小内巻込で有効をとり、初優勝を果たした。

**◎優勝＝渡名喜風南選手（コマツ）**

「初優勝できて素直に嬉しいです。山崎選手には今まで一度も勝ったことがないので、自分の柔道をやりきり、全力を出すように努めました。まだまだ課題がたくさんあります。上の選手に追いつけるよう一つ一つの課題に取り組んでいきたいです」

女子 48kg 級決勝＝渡名喜（右）対山崎

## ▽52kg級

女子 52kg 級決勝＝西田（左）が猛攻をかける

決勝は、西田優香（了徳寺学園職）と東アジア2位の五味奈津実（JR東日本）に勝利した垣田恵利（兵庫県警）のベテラン対決となった。西田が指導1、垣田が指導2を受け試合は終了。西田が2連覇、3度目の優勝を成し遂げた。

**◎優勝＝西田優香選手（了徳寺学園職）**

「優勝できてほっとしています。今回は、内容よりも結果を重視し、指導でも何でもいいから勝ちたいと挑みました。リオが最後のチャンスだと思っています。五輪への道は自分で手繰（たぐ）り寄せたいです」

## ▽57kg級

実力者の出口クリスタ（山梨学院大）は準決勝で敗退。決勝は、出口に勝った昨年2位の石川慈（コマツ）と選抜体重別2位の山本杏（国士舘大）の対戦となった。山本の背負投が有効となるものの、石川は山本が崩れたところに横四方固を決めて一本勝ち。2回目の優勝を飾った。

**◎優勝＝石川慈選手（コマツ）**

「優勝できたのは、ポイントを取られても必ずチャンスはあると思い諦めず攻めた結果だと思います。寝技は中学の時から練習しています。最後に横四方固に持ち込めたのも、長年の練習の成果ですかね」

女子 57kg 級決勝＝石川（右）対山本

## ▽63kg級

女子 63kg 級決勝＝能智（左）が指導差 1 で優勝

決勝まで勝ち進んだ能智亜衣美（筑波大）は、世界ジュニア優勝の鍋倉那美（大成高）と対決した。互いに技が決まらず、残り時間約2分で鍋倉が指導1を受ける。そのまま試合は終了。能智が初優勝に輝いた。

**◎優勝＝能智亜衣美選手（筑波大）**

「全国の試合では一度も一番になったことがありません。やっと一番上の表彰台に上がれて本当に嬉しいです。今日は自分の力を出し切ろうと、試合に臨みました。それが功を奏し、良い結果が出たのだと思います。本当は今日来ていない両親に今の姿を見てもらいたかったです」

## ▽70kg級

ベテラン大野陽子（コマツ）は、準決勝で安松春香（ＡＬＳＯＫ）を降した。決勝では全日本学生優勝の池絵梨菜（国士舘大）と対決、残り時間49秒で大野が横四方固で一本。3年ぶり2回目の優勝を決めた。

**◎優勝＝大野陽子（コマツ）**

「グランドスラムに出場するため、この大会では優勝を狙って今日まで練習してきました。寝技に入り、返されそうになりましたが、チャンスを逃すまいと必死に抑えました」

女子 70kg 級決勝＝横四方固を決めた大野（上）

## ▽78kg級

女子 78kg 級決勝＝濵田（左）対髙山

決勝は、全日本選抜体重別で初優勝した濵田尚里（自衛隊体育学校）と、同大会2位の髙山莉加の対戦。全日本選抜と同じカードとなった。濵田が髙山の腕関節をきめ、縦四方固で一本勝ち。初優勝を成し遂げた。

**◎優勝＝濵田尚里選手（自衛隊体育学校）**

「優勝できてよかったです。決勝ではいつも通りの試合を心掛けました。ですが内容にはあまり満足していません。次の大会でも優勝を目指し頑張ります」

## ▽78kg超級

78kg超級注目の朝比奈沙羅（東海大）が登場。3回戦で山本沙羅（大阪体育大）を、準決勝で市橋寿々華（大阪府警）を破った。決勝では、稲森奈見（三井住友海上）と対決した。試合開始直前、大きな声を上げ、自らを奮い立たせた朝比奈。稲森の足技で身体を揺さぶられ、指導1を受け不利になるものの、試合への集中力は十分であった。残り時間1分、稲森の隙をついた払巻込が有効となり、3連覇を達成した。

**◎優勝＝朝比奈沙羅選手（東海大）**

「決勝では、ファーストタッチがよくなく、まずいと感じました。焦りもあり稲森奈見選手に指導1で先行されましたが、残り時間1分、恐怖はありましたが勝ちにいかなきゃという気持ちが強くなり、思い切ってしかけにいきました。講道館杯で3連覇できたことは、自分の自信にも飛躍にも繋がると思います。勢いこのままに、来年4月のリオ五輪最終選考に向けて、78超級トップを走る田知本、山部、両先輩に負けないよう練習していきたいです」

女子 78kg超級決勝＝朝比奈（右）が有効をとる

【大会結果】

| ◆男子 | 優勝 | | 2位 | 3位 | |
|---|---|---|---|---|---|
| 100kg超級 | 上川大樹（京葉ガス） | （2年ぶり2回目） | 西潟健太（旭化成） | 小川雄勢（明治大） | 影浦　心（東海大） |
| 100kg級 | ウルフアロン（東海大） | （初優勝） | 下和田翔平（京葉ガス） | 穴井亮平（東海大附属熊本星翔高） | 小林大輔（ALSOK） |
| 90kg級 | 大辻康太（日本エースサポート） | （初優勝） | 小林悠輔（筑波大） | 垣田恭兵（旭化成） | 江畑丈夫（国士舘大） |
| 81kg級 | 海老泰博（旭化成） | （初優勝） | 川上智弘（國學院大職） | 春山友紀（自衛隊体育学校） | 小原拳哉（東海大） |
| 73kg級 | 橋本壮市（パーク24） | （初優勝） | 田村和也（パーク24） | 土井健史（ダイコロ） | 福岡克仁（日本大） |
| 66kg級 | 堅山　将（鹿屋体育大） | （初優勝） | 丸山城志郎（天理大） | 阿部一二三（神港学園神港高） | 藤阪太郎（国士舘大） |
| 60kg級 | 山本浩史（ALSOK） | （2年連続3回目） | 青木　大（日本体育大） | 田中崇晃（筑波大） | 藤澤征憲（国士舘大） |
| ◆女子 | | | | | |
| 78kg超級 | 朝比奈沙羅（東海大） | （3年連続3回目） | 稲森奈見（三井住友海上） | 市橋寿々華（大阪府警） | 井上愛美（JR九州） |
| 78kg級 | 濵田尚里（自衛隊体育学校） | （初優勝） | 髙山莉加（三井住友海上） | 泉　真生（山梨学院大） | 髙橋ルイ（オージー技研） |
| 70kg級 | 大野陽子（コマツ） | （3年ぶり2回目） | 池絵梨菜（国士舘大） | 宇野友紀子（環太平洋大） | 安松春香（ALSOK） |
| 63kg級 | 能智亜衣美（筑波大） | （初優勝） | 鍋倉那美（大成高） | 塩瀬絢子（三井住友海上） | 米澤夏帆（龍谷大） |
| 57kg級 | 石川　慈（コマツ） | （4年ぶり2回目） | 山本　杏（国士舘大） | 出口クリスタ（山梨学院大） | 大友真貴子（コマツ） |
| 52kg級 | 西田優香（了徳寺学園職） | （2年連続3回目） | 垣田恵利（兵庫県警） | 富沢佳奈（埼玉栄高） | 黒木美晴（環太平洋大） |
| 48kg級 | 渡名喜風南（帝京大） | （初優勝） | 山崎珠美（山梨学院大） | 森崎由理江（鑪建築設計） | 遠藤宏美（ALSOK） |

## 【グランドスラム東京出場選手】

全試合終了後、直ちに強化委員会が開かれ、12月4～6日に開催されるグランドスラム東京2015の日本代表選手56名が決定。今年の世界選手権出場者、講道館杯優勝者等が選出された。来年8月に開催されるリオ五輪の代表選手は、グランドスラム東京の結果等も踏まえ、来年4月に最終選考される。

### ■日本代表選手

◇男子

▼100kg超級＝七戸龍（九州電力）、王子谷剛志（旭化成）、原沢久喜（日本中央競馬会）、上川大樹（京葉ガス）

▼100kg級＝髙木海帆（日本中央競馬会）、羽賀龍之介（旭化成）、ウルフアロン（東海大）、下和田将平（京葉ガス）

▼90kg級＝ベイカー茉秋（東海大）、吉田優也（旭化成）、西山大希（新日鐵住金）、大辻康太（日本エースサポート）

▼81kg級＝永瀬貴規（筑波大）、丸山剛毅（パーク24）、長島啓太（日本中央競馬会）、海老泰博（旭化成）

▼73kg級＝中矢力（ALSOK）、大野将平（旭化成）、秋本啓之（了徳寺学園職）、橋本壮市（パーク24）

▼66kg級＝海老沼匡（パーク24）、髙市賢悟（東海大）、髙上智史（旭化成）、竪山将（鹿屋体育大）

▼60kg級＝志々目徹（了徳寺学園職）、髙藤直寿（東海大）、木戸慎二（パーク24）、山本浩史（ALSOK）

◇女子

▼78kg超級＝田知本愛（ALSOK）、山部佳苗（ミキハウス）、朝比奈沙羅（東海大）、稲森奈見（三井住友海上）

▼78kg級＝梅木真美（環太平洋大）、佐藤瑠香（コマツ）、緒方亜香里（了徳寺学園職）、濵田尚里（自衛隊体育学校）

▼70kg級＝新井千鶴（三井住友海上）、ヌンイラ華蓮（了徳寺学園職）、田知本遥（ALSOK）、大野陽子（コマツ）

▼63kg級＝田代未来（コマツ）、西川真帆（了徳寺学園職）、嶺井美穂（桐蔭学園高）、能知亜衣美（筑波大）

▼57kg級＝松本薫（ベネシード）、宇髙菜絵（コマツ）、芳田司（コマツ）、石川慈（コマツ）

▼52kg級＝中村美里（三井住友海上）、橋本優貴（コマツ）、志々目愛（帝京大）、西田優香（了徳寺学園職）、

▼48kg級＝浅見八瑠奈（コマツ）、近藤亜美（三井住友海上）、渡名喜風南（帝京大）、山崎珠美（山梨学院大）

## 平成27年度全国警察剣道大会

# 大阪府警が3年ぶりに王座奪還

**平成27年度全国警察剣道大会（主催＝警察庁）が10月13日、日本武道館で開催された。試合は第1部、第2部、第3部のグループ別の団体戦が実施され、各都道府県警察の威信を掛けた熱戦が繰り広げられ、第1部は3年ぶりに大阪府警が優勝。第2部は宮崎県警、第3部は山梨県警がそれぞれ優勝した。**

第一部は12チームが参加。4グループに分けて予選を行い、各グループ首位の4チームでトーナメント戦を行った。

予選の結果、決勝に残ったのは佐賀、北海道、大阪、皇宮の4チーム。優勝候補の警視庁が予選で姿を消す波乱となった。準決勝は、佐賀が北海道を4－2で、大阪が皇宮を7－0で降して、それぞれ決勝に進出。

決勝戦は3年ぶりの優勝を狙う大阪と、初優勝を目指す佐賀の顔合わせ。まず、先鋒戦は引分け。次鋒戦は佐賀の原が胴を決めて一本勝ち。五将戦、9月の個人戦で優勝している大阪・土谷は、佐賀の原口が小手を打って、居ついたところで面を打ち抜き、一本勝ち。中堅戦は大阪・岩切が佐賀・杉本を胴、面で退け、三将戦の大阪・牛島も佐賀・高取を小手二本で破り、大阪が優勝に王手をかける。副将の升田は小手で佐賀・片渕に一本勝ちして大阪はこの時点で優勝を決めた。大将戦、大阪の古川は開始一分で調子良く面と胴を決め、優勝を二本勝ちで飾った。

第1部決勝五将戦＝大阪・土谷（右）の面が決まる

**◎優勝＝大阪府警・小林憲和監督**

「一年間厳しい稽古に選手がついてきて、結果に結びつけてくれたことが嬉しいです。1年間の苦労が報われたと思います。選手のみんなには感動を与えてもらいました。ありがとうと言いたいですね。今後は、しっかり若手を育てて、大阪の伝統を守っていきたいと思います」

**◎優勝＝大阪府警・土谷有輝選手**

「嬉しいの一言です。この1年間、チーム全員で頑張ってきた努力の成果が出たかなと思います。9月の個人戦も優勝できましたが、2冠という感覚はあまりないです。団体戦での優勝を目標にしていたので、これさえ取れればという気持ちです。決勝では、なんとかして一本を取りたいと考えていました。決まった一瞬だけ、うまく身体が反応して面が打てました」

第1部優勝＝大阪府警

**【大会結果】**

▽**第1部**　①大阪府警②佐賀県警③北海道警

▽**第2部**　①宮崎県警②神奈川県警③埼玉県警

▽**第3部**　①山梨県警②石川県警③長野県警

## 平成27年度全国警察柔道大会

# 大阪府警が2年連続で優勝

**平成27年度全国警察柔道大会（主催＝警察庁）が10月14日、日本武道館で開催された。試合は第1部、第2部、第3部のグループ別の団体戦が実施され、各都道府県警察の威信を掛けた熱戦が繰り広げられ、第1部は昨年に引き続いて大阪府警が優勝した。第2部は埼玉県警、第3部は鹿児島県警がそれぞれ優勝した。**

第1部決勝＝大阪・川瀬（左）が背負投で一本

第一部は12チームが参加。4グループに分けて予選を行い、各グループ首位の4チームでトーナメント戦を行った。

予選の結果、決勝に残ったのは、大阪、愛知、兵庫、福岡の4チーム。準決勝は大阪が愛知を4－0で、兵庫が福岡を4－1で降して、それぞれ決勝に進出した。

決勝戦は、連覇を狙う大阪と佐賀の顔合わせ。まず、先鋒戦は大阪・橋口が巴投の有効で勝利。次鋒戦は兵庫・松本が相手の指導4で反則勝ち。五将戦は引分け、中堅戦は兵庫・辻本が指導差で優勢勝ち。三将戦の大阪・川瀬は豪快な背負い投げで兵庫・長尾から気迫の一本を奪って勝ち数2－2で並ぶも、副将の兵庫・岩田は見事な内股で大阪・増田に一本勝ちして再び大阪を突き放す。大将戦、一本勝ち以外、優勝の望みがない大阪・川北は相手の反則を4つ誘い、反則勝ち。この結果、大阪が土壇場で逆転。大阪が薄氷の勝利を収め、連覇を果たした。

**◎優勝＝大阪府警・北田孝敏監督**

「去年は助監督でした。今年も同じ立場のつもりでしたが、監督の重み、達成感が違いました。今年負けると、大阪の評価が下がってしまうので、しっかりやりたいなと思っていました。実際に2連覇できて本当に嬉しいですね。決勝戦は最後まで諦めずに選手が頑張ってくれました。練習の成果だと思います」

**◎優勝＝大阪府警・川瀬孝司選手**

「ホッとしています。今年5月の警察の大会では兵庫に負けてしまったので、前回の優勝は考えずに、去年以上に厳しい稽古をやってきました。決勝の長尾選手は学生時代に負けている苦手なタイプでしたが、そういうことは考えずに頭を真っ白にして試合に臨みました。得意技は背負投しかないのですが、自然と身体が動きました。若い選手もチームに入ってきていますし、3連覇できるように頑張りたいです」

第1部優勝＝大阪府警

**【大会結果】**

▽**第1部**　①大阪府警②兵庫県警③福岡県警

▽**第2部**　①埼玉県警②広島県警③熊本県警

▽**第3部**　①鹿児島県警②栃木県警③静岡県警

## 第63回全日本学生剣道優勝大会

# 筑波大が2年ぶり12度目の優勝

決勝戦＝筑波大・林田（右）が小手を決める

**第63回全日本学生剣道優勝大会（主催＝全日本学生剣道連盟・毎日新聞社）は、10月25日、日本武道館で開催され、全国各地の予選を勝ち抜いた64大学が出場し、覇を競った。**

**決勝で、筑波大が鹿屋体育大を総取得本数差で上回り、2年ぶり12度目の優勝を飾った。**

大会は7人の団体制で行われ、試合時間は5分、3本勝負とし、勝敗が決しない場合は引き分けとした。チームの勝敗は勝者数によって決め、同数の場合は総取得本数で決した。勝者数、総取得本数も同数の場合は時間無制限の一本勝負で勝敗を決した。

◇

準決勝には、前回優勝の鹿屋体育、9月に開催された関東学生剣道優勝大会を制している日本体育、同2位の筑波、同3位の中央が勝ち上がった。

準決勝第1試合は筑波対中央。先鋒、次鋒戦を引き分けた後、五将、中堅戦と中央がそれぞれ一本勝ちを収め、リードする。三将戦は引き分け、副将戦は筑波・山下が一本勝ち、大将戦は筑波・竹ノ内が中央・梅ヶ谷から面を奪い、一本勝ちを収めた。勝者数・総取得本数も同一のため代表戦となり、再び大将同士の対戦となった。6分過ぎ、鍔迫り合いからの離れ際、竹ノ内が引き面を決め筑波が決勝進出を果した。

準決勝第2試合は鹿屋体育対日本体育。鹿屋体育は五将、中堅、副将が勝ち、3―1で決勝に進出した。

**▼決勝**

**筑波1（2）―（1）1鹿屋体育**

**筒井雄大　―　望月脩平**
**佐々木陽一朗　―　真田裕行**
**田内雄大　―　草野龍二郎**
**加納彰大　―　椿松慎治**
**林田匡平　ココ―　持原大希**
**山下和真　―コ　宮崎邦春**
**竹ノ内佑也　―　柳田喜章**

先鋒戦から中堅戦までを引き分けで迎えた三将戦。全日本学生個人戦を制している筑波の林田は、素早い攻めで鹿屋体育・持原から小手を奪う。その後、林田は右肩を痛め、試合が中断。試合再開後、両者攻め合う中から、林田は出小手を奪い二本勝ちを収めた。副将戦、鹿屋体育・

宮崎は筑波・山下の手元が上がった所を小手に跳び込み一本勝ちとし、勝ち星を1―1に戻した。大将戦、一本を取らなければ負けてしまう鹿屋体育の柳田は、開始早々から筑波の竹ノ内へ果敢に攻める。竹ノ内は無理に勝負には出ずに守りきり、引き分けた。勝者数は1―1だか、総取得本数差で筑波が2年ぶり12度目の優勝を飾った。

**◎優勝＝筑波大・鍋山隆弘監督**

「竹ノ内キャプテンを中心としたチーム作りや、部員の自主性に任せた所もありました。掛かり稽古や打込みで鍛えること、基本をきっちり行うこと、技の工夫、この3本柱を全部やらないといけませんね。各自良いものを持っていますので、教えることよりも、環境づくりが大切だと思います」

**◎優勝＝筑波大・竹ノ内佑也選手**

「2年前優勝を味わったんですけど、自分たちの学年でも取りたいという思いがあったので、最高です。学生最後の大会ということもあったので、勝っても負けても楽しもうと思っていました」

優勝＝筑波大

大将戦＝筑波・竹ノ内（右）対鹿屋体育・柳田

## 第34回全日本女子学生剣道優勝大会

# 鹿屋体育大が3年ぶりに優勝

**第34回全日本女子学生剣道優勝大会（主催＝全日本学生剣道連盟・毎日新聞社）は11月8日、愛知・春日井市総合体育館で開催された。大会には全国8地域連盟の予選を勝ち抜いた56大学が出場し、鎬（しのぎ）を削った。**

**決勝で鹿屋体育大が関西学院大を破って優勝。3年ぶり9回目の栄冠に輝いた。**

◇

大会は5人の団体戦で、試合時間は4分、その他の試合形式については男子と同様に行われた。

◇

準決勝に勝ち上がったのは、前年度優勝の法政、2位の筑波、九州予選を1位通過した鹿屋体育と、関西学院の4大学。

準決勝第1試合、鹿屋体育は法政と対戦。先鋒が引き分けた後、次鋒戦、鹿屋体育・片山が法政・岡﨑から面を奪い一本勝ち。中堅から大将までは引き分けた結果、1―0で鹿屋体育が決勝に進出した。

準決勝第2試合、関西学院対筑波は、先鋒の筑波・乗田が二本勝ちを収め先制するも、関西学院の次鋒から副将までが3連勝して勝負を決め、3―1で関西学院が決勝へ駒を進めた。

**▼決勝**

**鹿屋体育　2―0　関西学院**

**西尾明日菜コメ―　鈴木理沙**
**冨永比奈野　―　岡田春希**
**片山果沙稀　コ―　阪上真有**
**松本智香　―　伊波　瞳**
**山﨑瑠美　―　鈴木慶香**

先鋒戦、鹿屋体育の西尾が二本勝ちを収め、勢いをつける。次鋒戦は引き分けた後、中堅を任された鹿屋体育の1年生・片山は、関西学院の阪上から小手を奪い一本勝。副将、大将は引き分けとなり、2―0で鹿屋体育が優勝を決め、3年ぶり9回目の栄冠を摑（つか）んだ。

# 第49回少林寺拳法全日本学生大会

男子団体・最優秀＝早稲田大

# 1707名の学生拳士が技競う

女子団体・最優秀＝日体大

**全日本学生少林寺拳法連盟設立50周年記念第49回少林寺拳法全日本学生大会は11月1日、日本武道館で開催された。大会には、全国147校延べ1707名の学生拳士が参加し、演武や立合評価法で技を競い合った。**

大会は午前9時に、鎮魂行で始まり、続いて本戦出場を懸けた演武全17種目の予選が行われた。

開会式は、午後1時半から行われ、土井友里栄関西学生少林寺拳法連盟委員長が開会を宣した後、国歌斉唱を経て、松平頼武全日本学生少林寺拳法連盟会長が挨拶に立ち、「本大会は〝率〟（ひきいる）がテーマです。自分の人格がしっかりしたものでなければ人はついてきません。技・技能はもちろん、少林寺拳法の真髄の心をきちんと学び、人を思いやる心も学んで欲しい。また、少林寺拳法を通して人格を磨き上げ、実社会に出ていただくことをお願いします」と述べた。

続いて、新井庸弘少林寺拳法連盟会長が、「少林寺拳法の修行の在り方は、相手の存在を認め、尊重し、そして協力関係の中で切磋琢磨して、本当の強さ、本当の優しさ、そして人間としての生き方の規範を身に付けるための『人づくりの行』です。今後とも自信と信念と誇りを持って、少林寺拳法の修行に精進し、自己の確立をはかるとともに、苦楽を共にできる良き仲間を一人でも多く増やしていこうではありませんか」と選手を激励した。

その後、来賓紹介、祝電披露、模範演武、上原佑香全日本学生連盟委員長の挨拶が続き、本戦へと移った。

本選では、予選通過の拳士たちによる、学生らしい気迫溢れた、またスピード感ある演武が披露された。

演武本選終了後は、立合評価法（防具を着けての競技）が行われ、修練の成果が試された。

すべての競技が終わり、閉会式では、各種目の最優秀演武と優秀立合評価法の受賞拳士が演武を披露。受賞者には熱い拍手が送られた。

◎古澤　慈士（左）
「最後まで最優秀に選ばれるか不安だったんですけど、接戦の中でも無事に勝ち取れてよかったと思っています。今後も少林寺拳法を続けられるのであれば、今の実力をもっと向上できるように頑張りたいです」

◎谷口　尊信（右）
「４年間全日本に出場して、今回初めて決勝戦まで出られました。関東の強豪が多い激戦区の中で、関西の意地を見せられて良かったと思います。今後は、少林寺拳法の奥深さをもっと全国的に広められるよう協力していきたいです」

男子二段以上・最優秀＝谷口（左）・古澤組（大阪産業大）

◎堀尾　愛（左）
「いろいろな人への感謝の気持ちを込めて、最後は楽しもうと思ってやりました。その結果、一番良い演武ができて、結果もついてきたので、ほんとうに感無量です。４年生で引退になるので、最後に良い思い出ができました。とにかく周りに感謝を伝えたいです」

◎三橋　智恵（右）
「私も４年生で最後の大会だったんですけど、有終の美を飾ることができて、ほんとうに嬉しく思っています。相方の堀尾に感謝しています。また、支えてくれた両親、それから先輩、同期、後輩、先生方みんなに感謝です」

女子二段以上・最優秀＝堀尾（左）・三橋組（明治大）

**【大会結果】**※最優秀演武のみ

▽**男子二段以上**＝谷口尊信・古澤慈士（大阪産業大）
▽**女子二段以上**＝堀尾愛・三橋智恵（明治大）
▽**男女二段以上**＝稲野卓也・森仁美（龍谷大）
▽**男子初段**＝赤岡拓・鈴木隼（早稲田大）
▽**女子初段**＝幾川柚香・加来穂香（日体大）
▽**男女初段**＝浮田かんな・川本響太郎（日体大）
▽**男子茶帯**＝齊藤大哲・津野蒼（東京大）
▽**女子茶帯**＝蔭山真理奈・佐藤みのり（明治学院大）
▽**男女茶帯**＝田村友花・土田新（法政大）
▽**男子白緑帯**＝西村涼・宮崎康輔（慶應義塾大）
▽**女子白緑帯**＝上中瑠英・曽根理子（学習院大）
▽**男女白緑**＝田尻曜子・田中渉太郎（同志社大）
▽**三人掛け**＝金親優希・豊田竜大・堀井颯馬（明治大）
▽**単独有段**＝伊勢歩実（日本大）
▽**単独段外**＝石川広都（日体大）
▽**男子団体**＝早稲田大
▽**女子団体**＝日体大

①演武始め・天真正伝香取神道流剣術

鹿嶋市市制施行 20 周年記念

## 第６回 鹿島神宮奉納 日本古武道交流演武大会

# 武甕槌大神に 35 流派が演武を奉納

**鹿嶋市市制施行20周年記念第６回鹿島神宮奉納日本古武道交流演武大会（主催＝日本武道館・日本古武道協会）が、10月４日、武神を祀る鹿島神宮（茨城県鹿嶋市）で開催され、日本各地に伝わる古武道35流派が武神・武甕槌大神（たけみかづちのおおかみ）に演武を奉納した。**

秋晴れの清々しい天気となった10月４日、鹿嶋市市制施行20周年を記念した本大会は、過去最多の35流派150名が参加。多数の観覧者（約２３００名）が熱心に演武を見守る中、開催された。

大会は、鹿島神宮の拝殿前特設演武場において、午前10時に開会した。はじめに開会式では、松永光日本武道館会長より主催者挨拶。

「武道は日本を代表する、大切にしなければならない伝統文化であります。鹿島神宮の神様は日本の武の最高位と伺っております。その武神を御祭神とする鹿島神宮で演武を納め、大会が行えることは誠に嬉しい限りであります。武道、そして古武道を日本の伝統文化として、今後とも益々発展していけるように皆様にお願い申し上げます」

鹿島神宮拝殿

松永　光
日本武道館会長

鹿島則良
鹿島神宮宮司

錦織孝一
鹿嶋市市長

次に、鹿島則良鹿島神宮宮司から歓迎の言葉が述べられた。

「鹿島の神様である武甕槌大神様は1300年前に書かれた古事記や日本書紀の中でも活躍され、日本の神様の中で一番強い神様と言われております。神武天皇が御即位された時、その力の強い神様を日本の東、太陽が昇る所に鎮座なされたのが鹿島神宮であります。演武者の皆様には鹿島の大神様の前で普段鍛えられた技をしっかりと見せていただけると思っております」

続いて錦織孝一鹿嶋市市長が「鹿島の地は、鹿島新當流の開祖であり無敗の剣豪である塚原卜伝の生誕の地であります。近年、鹿島はサッカーが有名ですが、元来は武道の地であります。本日は、日頃からの鍛錬の成果を発揮してもらうと同時に古武道の真髄を遺憾なく披露していただければと存じます」と祝辞を述べ、開会式は終了した。

演武始めは天真正伝香取神道流剣術。静寂に包まれた境内で大勢の観客が固唾を飲んで見守る中、演武者は掛け声とともに居合術の演武を披露した。その後、休みなく演武は続き、全35流派が古武道の技と心を余すことなく披露していった。

相手の防御本能を利用した柔術、刹那に相手の剣を奪い制する技、演武者の腹の底から吐き出される呼吸法や一糸乱れぬ形演武に観客は魅せられ、感嘆のため息がもれていた。

約4時間にわたって行われた大会の演武納めは地元に伝わる鹿島新當流が行い、山田重夫日本古武道協会事務局長の閉会宣言で幕を閉じた。

懇親会での鏡開き

演武大会前日の3日午後3時半より鹿島神宮武徳殿で、演武者同士の交流を目的に術技研修交流会が行われた。場内を2会場に分け、2流派同時並行で、各流派は技を披露し合った。狭い場内では、演武流派の気合いの入った掛け声と打突音が響き渡り、時折、息遣いまで聞こえてきた。普段、他の流派を間近で見ることの少ない参加者たちは、その一挙手一投足に、真剣な視線を送った。

術技研修交流会終了後、場所を移して懇親会が開かれた。懇親会では、臼井日出男日本武道館理事長の主催者挨拶、市村修鹿島市副市長の祝辞、鹿島則良鹿島神宮宮司の歓迎の言葉と続いた。鏡割の後、三藤芳生日本武道館理事・事務局長の発声で乾杯となった。関係団体、各流派のスピーチで、大会の成功と最高の演武を披露することを演武者たちは誓い合い、盛会のうちに終了した。

⑥風傳流槍術

②大東流合気柔術琢磨会

③當田流剣術

⑧沖縄剛柔流武術

⑦示現流兵法剣術

④竹生島流棒術

⑤卜傳流剣術

⑨関口流抜刀術

⑩兵法タイ捨流

⑯柳生新陰流兵法剣術

⑪宝蔵院流高田派槍術

⑱伯耆流居合術

⑰直心影流薙刀術

⑫心月無想柳流柔術

⑲荒木流拳法

⑭荒木流軍用小具足

⑬無雙直傳英信流居合術

㉑北辰一刀流剣術

⑳天神真楊流柔術

⑮神道夢想流杖術

㉘天道流薙刀術

㉒尾張貫流槍術

㉓無比無敵流杖術

㉙大東流合気柔術

㉚立身流兵法

㉕琉球古武術

㉔神道無念流剣術

㉛為我流派勝新流柔術

㉗天然理心流剣術

㉖田宮流居合術

㉜鞍馬流剣術

㉝柳生心眼流體術

㉟演武納め・鹿島新當流剣術

㉞長谷川流和術

**【出場流派・演武者】**

①**天真正伝香取神道流剣術**（大竹信利、京増重利、荒野祥司、成毛弘、櫻井俊也）

②**大東流合気柔術琢磨会**（川辺武史、西谷修、小林清泰、中山良男、乾益一、山本敦史）

③**當田流剣術**（竹内文隆、神亮太、齊藤滉樹）

④**竹生島流棒術**（松浦寛澄、橋口英雄、栗山晃）

⑤**卜傳流剣術**（小山秀弘、小山隆秀）

⑥**風傳流槍術**（今西春禎、山田雅則、渡邊桂一）

⑦**示現流兵法剣術**（東郷重賢、有村博康、藤村亨、アレキサンダーブラッドジョー）

⑧**沖縄剛柔流武術**（蔵元雅一、戸田雄紀、村上実、若林義昌）

⑨**関口流抜刀術**（米原亀生、松岡秀樹、中山洋一、林憲一、上原征二、本庄弘幸）

⑩**兵法タイ捨流**（上原エリ子、山本隆博、田添信一郎、佐藤友昭）

⑪**宝蔵院流高田派槍術**（一箭順三、西本昌永、松井典夫）

⑫**心月無想柳流柔術**（八島和雄、奥村宗一郎）

⑬**無雙直傳英信流居合術**（藤井勝子、野口冨久子、山崎寛郎、関口髙一、尾上政人、関口心明）

⑭**荒木流軍用小具足**（豊田良樹、千葉明、片桐克彦）

⑮**神道夢想流杖術**（庄子都代子、阿部雅人）

⑯**柳生新陰流兵法剣術**（柳生耕一厳信、小泉弥貴也、香取宗和、中山雄介、星川宣禎、葭谷努）

⑰**直心影流薙刀術**（高橋チカ子、福嶋相子）

⑱**伯耆流居合術**（大窪敏明、吉岡勝子、桑波田秀祐、藤田春行）

⑲**荒木流拳法**（菊池邦光、永田仁志、西川二郎、鈴木荒一）

⑳**天神真楊流柔術**（柴田孝一、柴田俊充、松浦富士雄、水野真）

㉑**北辰一刀流剣術**（髙山陽好、上田忠夫、兼子勝喜、桐原英夫）

㉒**尾張貫流槍術**（横地浩紀、森治紀、神原会弥、三木信輔、新小田次徳、山内一統）

㉓**無比無敵流杖術**（根本憲一唯之、安二郎、大和久正幸、斎藤幸生、落合脩治、渡辺文男）

㉔**神道無念流剣術**（小川武、萩崎昭、土屋正則、高田一男、玉根純也）

㉕**琉球古武術**（遠山衞、誉田潔、佐藤雅一、髙橋淳也）

㉖**田宮流居合術**（妻木達夫、小野信義、清水新也、山田千代和、山口隆一、吉池映治）

㉗**天然理心流剣術**（平井正人、山口和惠、時田由記、加藤恭司、常田貞行、サンドロ・フルツィ）

㉘**天道流薙刀術**（木村恭子、小林静子、福田啓子、田室美知子、廣瀬幸子、木村有里）

㉙**大東流合気柔術**（近藤昌之、天野鎮夫、吉澤隆明、石井勇一、トルーデル・マーク、池嶋勝則）

㉚**立身流兵法**（加藤紘、齊藤勝、江尻裕介、八角敏正、石毛勝也、桒原実）

㉛**為我流派勝新流柔術**（根本憲一唯之、村木浩治、沢幡伸男、久野周也）

㉜**鞍馬流剣術**（柴田章雄、吉田穣覚、松井康一、渡辺良雄）

㉝**柳生心眼流體術**（梶塚靖司、小林茂雄、藤澤勝也）

㉞**長谷川流和術**（桑原巡、倉田勝己、中前裕治、逸見彰一）

㉟**鹿島新當流剣術**（今井淳也、内田嘉昭、横尾廣美、畳屋敏治、岡見安宏）